

# 筆道資料の探訪

## 仏教と書道

仏教がわが国に伝来したのは  
欽明天皇十三年（五五二）で、  
仏典の読誦や書写が行われまし  
た。

飛鳥時代聖徳太子は仏教を深  
く信仰し、四天王寺や法隆寺を  
建立するなど仏教とともに興隆  
しました。

聖武天皇（七二四〜七四八）  
もまた仏教を尊信して、奈良東  
大寺をはじめ、諸国に国分寺を  
建立し、その布教をはかりまし  
た。仏教の伝来で日本の文化の  
総てが大きく開花したのです。  
書道も遣唐使として海を渡つ  
た仏教大師（最澄）、弘法大師（空

海）等わが国の優れた留学僧た  
ちによってみごとに伝達され  
たのです。

わが国書道創世期の古筆の名  
品が今日なお不滅の光彩を放  
つています。

大同元年（八〇六）、空海は  
製筆の法を授かって唐から帰  
朝し、その技術を坂名井清川  
に伝授して六種の筆を嵯峨天  
皇に奉献した。空海伝来の製  
筆法とは巻筆の一種であるが、  
従来のものに改良を加えたも  
のである。  
狸毛筆奉献上表には、この

製筆法は真書、行書、草書、  
写書によって、また大小、長  
短、強弱によって毛の取捨が  
あることをいい、毛の選び方、  
紙を巻く時の要領があること  
が記されている。

熊野町史通史編六八八頁

「空海による筆の改良」

現在、滋賀県藤野雲平氏に伝  
わる大師流製筆は、雀頭筆に比  
較して著しく穂が長く、筆柱に

紙を巻いて穂の形を整え、すぐ  
に上毛をかけるという簡単な方  
法で、これは一方で巻筆の特長  
を失わず、しかも含墨量を多く  
し、大字小字に兼用することの  
出来る製筆法です。

この時代の書道は唐様が多く  
学ばれ、特に王羲之の書が最も  
珍重愛好されました。東大寺献  
物帖に王羲之の「書法二十卷」  
があります。

### 妙法蓮華狂勸持品第三

余時樂王菩薩摩訶薩及大樂說菩薩摩訶  
薩與二万菩薩眷屬俱皆於佛前作是誓言  
唯願世尊不以為慮我等於佛滅後當奉持  
讀誦說此經典後惡世衆生善根轉少多增  
上慢貪利供養增不善根速離解脫難獲可

弘法大師筆